

時論

太鼓の音は人間の心にリズム感と呼び起こし、躍動感を与えてくれる。音楽感覚に乏しい人でも体が自然に揺れ動く響きがひそんでいる。サンバの踊りも太鼓で調子を合わせ熱狂的なムードを盛り上げていく。

太鼓は人類が太古の時代からつくり出した最も古い楽器の一つであり、物をたたき、喜び、怒り、悲しみを表現してきた。さらには通信の伝達方法として、遠方の相手に音によって情報を送り、あるいは交換していた。太鼓はただ打つだけによる音と考えられがちだが、打ち方によって自然界の情景も表現出来る幅広い「機能」を持っている。

和賀郡江釣子村は国指定遺跡の古墳群が点在しているが、これにあやかっただ「古墳太鼓」が誕生した。古墳は文字通り古代人の墓地である。古代人がどんなリズム感を持ち、生活に反映してきたかは定かでないが、祭りごとには歌って踊って騒いだに違いない。

江釣子村の五条丸、本宿両地区では廢

江釣子の「古墳太鼓」

れてしまった田植え踊りに代わる郷土芸能に」と「古墳太鼓」の創作活動に取り組み、約四年がかりで発足にこぎつけた。新しい芸能文化の創造である。太鼓の音がいにしえのロマンをしのばせてくれることだろう。

「古墳太鼓」は大太鼓五個、小太鼓四個の構成で、先人たちの息吹をテーマにし、想像の世界を描き出す。一部と二部に分かれ、約十分の荘厳なリズムが舞台に繰り広げられる。

太鼓の打ち手は二十三歳から四十一歳までの十人。このうち主婦二人を含めて三人が女性である。二十二日には、この日から始まった「江釣子古墳まつり」でお披露目公演があって正式に「デビュー」し、まつりに訪れた人々を魅了した。きょう二十三日も披露される。十月二十二日には陸前高田市で開かれる全国太鼓フェスティバルにも出演するが、全国の太鼓に肩を並べての熱演が期待される。文化は先人の遺産を守り、それを土台にして創造していくことも大事なことがある。江釣子村の新たな文化の誕生を喜ぶたい。